

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	7 国際交流 (研究科)
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 英語による授業のみで修士課程を修了できる国際開発戦略コースを充実する	→英語で開講される講義で修了する国際開発戦略コースの学生数、同コースについてのホームページなどによる情報発信の有無	B	B	C	C	C
2. 国連や関係する諸機関との教員レベルの交流と連携を強化する	→特別客員教員数と開講講義数	B	B	B	B	B
3. 外国人教員の比率(現在約20%)を維持する	→外国人教員比率	A	B	B	B	B
4. 国際公務員を志望する学生に向けた教育プログラムを設置する	→国連ボランティア、国際公務員育成を目的とする教育プログラムの有無	D	D	D	C	C
5. 外国人留学生を積極的に受け入れる	→外国人留学生数	A	A	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際開発戦略コースに関する広報、情報発信は、これまで不十分であった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 現在同コースにおける在籍者はいない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度学部において、国際公務員も含めたグローバル人材育成のための教育プログラム(GCaP)が設立された。これを踏まえて、修士課程までのカリキュラムを連携させた一貫教育プログラムを検討中。	☆
		その他	☆
			☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際機関での経験豊かな特別客員教員や客員教員を招聘し、これらの教員が担当する授業科目を開講している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 幅広い国際経験、実務経験に裏付けられた知識、考え方を学生に提供する機会が増加した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、これら特別客員教員等を通じて、国際機関との教員レベルの交流と連携を強化していきたい。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 新たな教員採用の時点で、一定の外国人教員比率を維持するように努めてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人教員の割合は、引き続き高い割合を維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまで通り、高い割合の外国人教員の比率を維持する方針。	☆
		その他	☆
			☆
目標4	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際公務員を志望する学生に向けた教育プログラムの設置については、十分な準備がなされてこなかった。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 未だ、本プログラムは設置されていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度学部において、グローバル人材育成のための教育プログラム(GCaP)が設立された。これを踏まえて、修士課程までのカリキュラムを連携させた一貫教育プログラムを検討中。	☆
		その他	☆
			☆
目標5	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学部外国人留学生の修士課程進学を積極的に支援、また、他大学からの進学については、広報に力を入れてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外国人留学生の割合は34.5%(2013年度)と、引き続き、高い比率を維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 引き続き、学部外国人留学生の修士課程進学を積極的に支援、また、他大学からの進学候補者に対して、広報を強化していく予定。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	8	12	10	8	10	7	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	0	0	0	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	21.6	28.6	22.2	21.0	34.5	28.0	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)